

2023年度点検・評価シート

- ・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針  
【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針
- ・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。
- ・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。
- ・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	12 中国語学科	責任者	竹島 毅
基準5	学生の受け入れ	自己評価	B
★基準5の自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
<<回答>> 学生の受け入れ方針に基づき、適正に入試を実施することに努めたが、結果的に定員数に対する比率が83%に留まったため、B評価とした。			
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。		
★<学生の受け入れ方針>（記入してください。） <b>中国語学科 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）</b> 中国語学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。			変 有（ ） 更 無（✓）
1. 知識・技能 高等学校卒業レベルの十分な学力を有している。 中国語を学ぶ意欲と基礎学力を有している。			
2. 思考力・判断力・表現力 中国の言語、文化、娯楽、歴史、政治、経済について興味があり、そうした事柄についてより深く学びたいと考えている。 単なる知識の修得にとどまらず、その知識にもとづいてより深く考え、自分の考えをまとめ、発表する能力を得たいと考えている。			
3. 主体的に学習に取り組む態度 将来は中国語を使う職業につきたいと考えている。 すでに一定の中国語能力を有しているが、その中国語の運用能力をさらに向上させたいと考えている。			
評価の視点1※ 【基礎要件●】	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針、基礎要件確認シート 15		
評価の視点2※ 【基礎要件●】	方針には、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像を踏まえて設定している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針		
評価の視点3※ 【基礎要件●】	入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示され、公表している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針		
◆学生の受け入れ方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。（ない場合は「なし」と記入）			
<<回答>> なし			
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。		
評価の視点1※	学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定している。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報、B5-2 入学試験要項（一般、公募制推薦、自己推薦、社会人、編入学、科目等履修生、外国人留学生）、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程		
評価の視点2※	授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供を適切に行っている。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報		
評価の視点3※	学科ごとに入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備している。 根拠資料→A3-11*入学センター規程、B5-15 部局内入試委員会名簿		
評価の視点4	公正な入学者選抜を実施している。根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程		

<p>★項目(2)5-2①公正な入学者選抜を実施するため、どのような取り組みを行っているか、根拠資料を用いて回答してください。</p>	
<p>＜回答＞</p> <p>推薦入試に関しては、各入試方式で複数の専任が判定委員を務め、試験当日の協議を経た後、その結果を学科協議会で諮り、外国語学部教授会で報告している。</p> <p>一般入試に関しては、試験結果に基づいて主任と入試委員の2名による検討を経た後、その結果を学科協議会で諮り、外国語学部教授会で報告している。</p>	<p>＜資料名＞</p> <p><b>12-C5-1:</b></p> <p>2023年度推薦入試等担当者一覧</p> <p>2023年度共通テスト・一般選抜監督者一覧</p> <p>中国語学科各種委員</p> <p>2022年度第8回学科協議会議事録</p> <p>2022年度第9回学科協議会議事録</p> <p>2022年度第10回学科協議会議事録</p> <p>2022年度第11回学科協議会議事録</p> <p>2022年度第13回学科協議会議事録</p> <p>2022年度第14回学科協議会議事録</p>
<p>★項目(2)5-2②オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施（オンラインによる入学者選抜を検討していれば、実施する場合における課題やメリット等を記述してください。）</p>	
<p>＜回答＞</p> <p>該当なし</p>	
<p>評価の視点5</p>	<p>入学を希望するものへの合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。（一般入試及び多様な入試への対応）<a href="#">根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程</a></p>
<p>★項目(2)5-2③オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の顧慮等）（オンラインによる入学者選抜を検討していれば記述してください。）</p>	
<p>＜回答＞</p> <p>◆<b>学生募集及び入学者選抜について問題点があれば記述してください。（ない場合は「なし」と記入）</b></p>	
<p>＜回答＞</p> <p>なし</p>	
<p>点検・評価項目(3)</p>	<p>5-3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。</p>
<p>評価の視点1※</p> <p><b>【基礎要件●】</b></p>	<p>学科の入学者数は、入学定員に対して適正な数である。</p> <p>注：定員管理の指針 入学定員に対する入学者数比率（5年平均）</p> <p>定員超過→実験実習を伴う分野 1.20 以上(改善課題)、1.25 以上(是正勧告)</p> <p>上記以外の分野 1.25 以上(改善課題)、1.30 以上(是正勧告)</p> <p>定員未充足→0.90 未満(改善課題)、0.80 未満(是正勧告)</p> <p><a href="#">根拠資料→大学基礎データ表2、基礎要件確認シート16</a></p>
<p>評価の視点2※</p> <p><b>【基礎要件●】</b></p>	<p>学科の在籍学生数は、収容定員に対して適正な数を維持している。</p> <p>注：定員管理の指針 収容定員に対する在籍学生数比率</p> <p>定員超過→実験実習を伴う分野 1.20 以上(改善課題)、1.25 以上(是正勧告)</p> <p>上記以外の分野 1.25 以上(改善課題)、1.30 以上(是正勧告)</p> <p>定員未充足→0.90 未満(改善課題)、0.80 未満(是正勧告)</p> <p><a href="#">根拠資料→大学基礎データ表2、基礎要件確認シート16</a></p>
<p>評価の視点3</p>	<p>収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応</p>
<p>★項目(3)5-3 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足がある場合、当該部局としての改善策（今後実施予定のものも含む）<a href="#">根拠資料を用いて回答してください。</a></p>	
<p>＜回答＞</p> <p>学科の専任4名による入試対策ワーキンググループを設置し、以下の改善策を策定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学科の最新ニュースを HP、インスタグラム、ツイッターなどから常時発信し、受験生の関心を引くようにする。</li> <li>2. 入試状況の実態に合わせ、一般入試の定員枠を変更する。</li> <li>3. 推薦志願者数の増加を目指し、①～③の取組を行う。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①指定校の評定平均値を一部引き下げる</li> <li>②新規指定校枠を増やす</li> </ol> </li> </ol>	<p>＜資料名＞</p> <p><b>12-C5-2:</b></p> <p>2024年度入試対策について</p> <p>2023 高校宛フライヤー</p>

③高校宛フライヤーを新たに作成する。	
4. 留学体験談や卒業生の就職先に関する情報を盛り込んだ冊子を作成し、オープンキャンパスや高校での体験授業時に配布する。	
点検・評価項目(4)	5-4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
評価の視点1※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 根拠資料→B2-51 2023年度点検・評価シート B2-52 会議録(または準ずるメール記録)：(開催日) 2023年度自己点検・評価について
評価の視点2 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っている。
★項目(4)5-4 改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。 2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。	
≪回答≫ 1. 総合型選抜の専願型と他大学併願可能型で以下の4つの方式を設け、受験生を幅広く受け入れるための方策を取っている。 A方式：中国帰国子女 B方式：中国社会・文化に興味を持つ者 C方式：中国語学習歴がある者 D方式：商業高校の卒業生 2. 指定校の更新を検討する際、成績、態度などの面で問題のある学生を抽出し、その学生の出身高校を指定校として継続するか否かを学科内で検討している。 3. 在籍学生の出身高校の進路指導担当教諭宛に、推薦入試の案内を郵送し、受験を勧めていただくをお願いをしている。宛名書きから封入までの一連の作業は専任全員で行っている。 4. オープンキャンパスにおいては、体験授業、学科個別相談以外にも、毎回、独自企画として「留学ナビ」を設け、動画などを交えて中国留学を高校生に紹介している。 5. 入試広報課から高校での体験授業の派遣依頼があれば、必ず応じている。	≪資料名≫ <b>12-C5-3：</b> 2024年度総合型選抜(専願型) 2024年度総合型選抜(他大学併願可能型) 指定校推薦校選定資料 高校宛推薦入試のご案内 宛名書き要領 2023年度オープンキャンパス担当者一覧 体験授業担当者一覧(2020-2022)

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項(工夫していること)を、意図した成果(目標)を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	2024年度入試の定員充足率を上げることを目標に、学科内で専任4名による「入試対策ワーキンググループ」を設置した。学科協議会で様々な提案を提出し、承認され次第、実行に移している。具体的な内容は、項目(3)5-3を参照。
-------	---

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	
--------	--

IV 【改善計画(事業計画)】

カテゴリ	計画番号	B票No. or 開始年度	改善計画(アクションプラン)	内容(改善を要すると判断した根拠)	目標の評価指標	目標値	年度計画

V 【内部質保証委員会による点検・評価】

2022年度<所見>
------------

<p>学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し、公表されている。入学者選抜実施のための運営体制として入試委員会等を設置し、教授会において入試総括、入試改革案審議や各種入試の可否判定について説明・提案をおこない、学生募集及び入学者選抜の入学者選抜を公正に実施されている。これらの点において、学生の受け入れ体制の整備と運営状況は適正であると評価できる。</p> <p>2022年度入試においては、3月下旬での未充足の状態に対して繰り上げ合格により対応し、入学定員充足率を1.03とされている。入学定員充足率は2020年度に0.91と1.00を下回ったものの、2018年以來1.03以上を維持しており入学者の獲得に関して概ね良好な状態にあると評価できる。今後も、入試の動向を注視しつつ入学者選抜の運営とその効果について検討を重ね適切な学生の受け入れを継続されることを期待する。</p>
<p><b>2023年度&lt;所見&gt;</b></p> <p>学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し、公表されている。また、入学者選抜実施のための運営体制として入試委員会等を設置し、教授会において入試総括、入試改革案審議や各種入試の可否判定について説明・提案を行い、学生募集及び入学者選抜を公正に実施している。これらの点において、学生の受け入れ体制の整備や運営状況は適正であると評価できる。</p> <p>しかし、入学定員に対する5年平均比率0.97、入学定員充足率は2022年度1.03、2023年度0.83となっており、収容定員充足率は2023年度0.97となっている。そのため、2024年度入試の定員充足率を上げることが目標として、学科内で専任教員4名による「入試対策ワーキンググループ」を設置した。学科協議会で様々な提案を行って承認され次第、実行に移すといった努力をされており、迅速な対応は評価できる。なお、1つの学科だけで解決しないこともありうるため、他学科との協力も必要である。今後、改善に至ることを期待したい。</p>

◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部署の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	<p>大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。</p> <p>(評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部署の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合)</p>
A	<p>大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。</p> <p>(評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合)</p>
B	<p>大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。</p>
C	<p>大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。</p>

<注> 「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

<p><b>基準5 学生の受け入れ</b></p> <p><b>【大学基準】</b></p> <p>大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。</p> <p>(解説)</p> <p>大学は、その理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定め、公表しなければならない。また、入学定員及び収容定員を適切に定め、公表しなければならない。</p> <p>大学は、その受け入れ方針に基づき、高等学校教育と大学教育との関連、社会人、帰国生徒及び外国人留学生の受け入れ、飛び級、編入学、転科・転部など、国際的規模での社会的要請に配慮し、適切な入学者選抜制度及びその運営体制を整備し、入学者選抜を公正に行う必要がある。</p> <p>大学は、教育効果を十分に上げるために、入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しなければならない。</p>
--

大学は、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。